にじいろ通信

令和 8年　3月号

キッズケア青い鳥のWEB予約と事前登録はこちらから

抗原検査とPCR検査

2月はB型インフルエンザが大流行しました。B型インフルエンザが今回のように流行したのは8年ぶりのことで、少雨による乾燥がその一因ではないかと考えられています。

インフルエンザの診断は通常抗原検査で行われますが、最近では1回の検査でインフルエンザや新型コロナ、RSウイルスなど複数の病原体を同時に検出できるPCR検査がクリニックでも実施されるようになってきました。そこで、新型コロナの流行初期によく耳にしたPCR検査と抗原検査の違いについて復習してみたいと思います。両者の違いは対象としている検出物が全く異なるということです。抗原検査はウイルスのタンパク質を検出しているのに対して、PCR検査はウイルスの遺伝子を増幅して遺伝子そのものを検出しています。

そのためPCR検査は抗原検査と比べて感度が高いのが特徴です。しかし、検査コストが高いこと、結果がでるまでに時間がかかることから、病気の鑑別診断など、目的を限定して実施されているのが現状です。

花粉症シーズン到来!

子どもの花粉症は年々低年齢化しており、現在では2～3歳頃から発症し、小学生の約半数が花粉症に罹患しているとされています。

愛媛県ではスギ花粉が2月中旬から飛散し始め、飛散量は3月中旬にピークを迎えるという予報が出ています。晴れて、気温が高く、風の強い日に花粉が飛びやすいとされています。

朝にその日の飛散情報を『tenko.jp』『yahoo天気』などのアプリで確認して、前もって薬を飲むなどの対策を立てるようにしましょう。

２月の感染症情報

B型インフルエンザが猛威をふるいました。定点あたりの報告数は第6週の51人をピークに少しずつ減少してきています。嘔吐を主体とする感染性胃腸炎の散発的な発生もありました。少数ですが、乳児のRSV感染症の発生があり、今後の推移には注意が必要です。

２月の利用状況

2月の利用延べ人数は115人、1日平均利用人数は6.4人でした。年齢別では、3歳児が22人で最も多く、次いで小学1年生20人と4歳児の18人でした。疾患別では、B型インフルエンザが66人で最も多く、次いで急性上気道炎29人の順でした。A型インフルエンザは2人のみでした。

2月はB型インフルエンザ一色に染まった印象でした。2月下旬から春の陽気を思わせるような温かい日が続きましたが、三寒四温の折、体調管理には十分お気をつけください。

キッズケア青い鳥　☎52-7077